

「大学入学希望者学力評価テスト（仮称）」に関する主な検討課題について（案）

※ 高大接続システム改革会議の最終報告を踏まえ、「記述式問題」「英語の多技能を評価する問題」「マークシート式問題」を中心に検討を行い、平成29年度初頭までに実施方針（案）を策定することが必要

1. 記述式問題

（1）作問方法

- 過去の大学入学者選抜問題等を分析することにより、設問の形式や問われている「情報間の関係性」、「思考のプロセス」等を構造化する。その上で、採点基準の在り方とセットで作問の考え方を整理し、その方針に基づき作問を行う。
（上記の分析を「大学入学希望者学力評価テスト（仮称）」、「高等学校基礎学力テスト（仮称）」、個別大学の入学者選抜のそれぞれの位置づけや相互の関係の明確化にも役立てる）

（2）採点方法

- 採点基準、採点方法、採点体制（民間等の活用や個別大学の関与の在り方を含む）等の検討
- 効率的・安定的な採点の在り方、特に、採点業務の補助として、答案のクラスタリング（類似解答のグループ化）などの業務にコンピュータ（AI等）を活用することなどの検討
- 人的・時間的・財政的コスト

2. 英語の多技能を評価する問題

- 四技能の評価を推進する観点から、民間の資格・検定試験の知見を積極的に活用する具体的な方策（実施形態、対象技能、コスト等）

3. マークシート式問題

- 思考力・判断力を一層重視した作問への改善の具体的な在り方
- 出題科目数の簡素化

4. 実施時期

- マークシート式問題と記述式問題や英語の多技能問題とを同日に実施する案と別日程で実施する案の双方のメリット・デメリットの検討

* 上記の課題について、「大学入学希望者学力評価テスト（仮称）」フィージビリティ検証事業（独立行政法人大学入試センターへの補助事業）を活用して実証的に検証しつつ検討。